

## 日臨技認定センター お知らせコーナー！

認定指定講習会、認定試験など認定に関するお知らせコーナーです。詳細はホームページをご覧ください。

### ◇ 認定心電検査技師認定試験、認定一般検査技師認定試験 終了

認定心電検査技師認定試験：平成 21 年 10 月 25 日(日)、受験者数は 164 名<前年比 45 名増加>。

認定一般検査技師認定試験：平成 21 年 11 月 15 日(日)、受験者数は 98 名。

合格者発表は、いずれも、平成 22 年 1 月末から 2 月初め頃となる予定である。

認定臨床染色体遺伝子検査師認定試験：平成 21 年 12 月 6 日(日)、<会場：日臨技会館>で実施予定。

### ◇ 認定一般検査技師認定資格更新 指定講習会

- 1) 主 催：高知県臨床検査技師会  
日 時：平成 21 年 12 月 12 日(土)12:00  
会 場：高知学園短期大学
- 2) 主 催：鹿児島県臨床検査技師会  
日 時：平成 22 年 1 月 31 日(日)8:30  
会 場：鹿児島大学医学部歯学部附属病院
- 3) 主 催：滋賀県臨床検査技師会  
日 時：平成 22 年 2 月 14 日(日)9:00  
会 場：アヤハレークサイドホテル
- 4) 主 催：和歌山県臨床衛生検査技師会  
日 時：平成 22 年 5 月 21 日(金)16:00  
会 場：神戸国際会議場 国際会議室
- 5) 主 催：京都府臨床検査技師会  
日 時：平成 22 年 2 月 13 日(土)9:00  
会 場：キャンパスプラザ京都
- 6) 主 催：岡山県臨床検査技師会  
日 時：平成 22 年 2 月 28 日(日)9:00  
会 場：川崎医療短期大学
- 7) 主 催：中部地区臨床検査技師会  
日 時：平成 22 年 3 月 20 日(土)11:30・21 日(日)9:20  
会 場：三重大学医学部

### 研修会のお知らせ！

平成 21 年度 NST 並びに CRC 研修会を下記日程にて開催します。詳細は、ホームページ、医学検査 1 月号に掲載いたしますので、ご覧ください。

#### ◇ 日臨技 NST 研修会

日 時：平成 22 年 3 月 7 日(日)  
会 場：近畿地区（現在大阪府を予定）  
内 容：実践を兼ねたロールプレイを実施致します。

#### ◇ 日臨技 CRC 研修会

日 時：平成 22 年 3 月 20 日～22 日  
会 場：日本臨床検査技師会館  
内 容：これから CRC を始める方、認定 CRC を目指す方のためのビギナー講習会です。  
会員優先ですが、定員に満たないときは、他職種の方参加可能です。

### 平成 21 年度 各地区学会の開催

- ◆ 第 46 回関東甲信地区医学検査学会  
日 程：平成 22 年 2 月 6 日(土)～7 日(日)  
会 場：幕張メッセ（千葉県千葉市）

### 編集室

- ◆ 国際宇宙ステーション(ISS)に“メダカの学校”をつくるそうです。これは、宇宙滞在による人への健康影響を調査する目的で ISS の日本実験棟「きぼう」で、メダカを 3 カ月間飼育するものです。発案者の一人である東京大学特任教授の浅島先生は、「メダカは脊椎動物で、人間と共通する部分も多く将来の宇宙開発に役立つ」としています。この「宇宙メダカコンソーシアム」は東京大学、宇宙航空研究開発機構(JAXA)など約 20 研究機関が参画しています。技師会もこのような将来に向けての夢を語る研究が必要でしょう。
- ◆ 地球外には、脱水生命状態の生命体が飛びかっているかもしれませんよ。動植物の組織は一般的に 60~80%が水です。人間は体内水分の 14%を失うと…**the end**…です。しかし、地球上には固有の進化によって、体内の 95%以上の水分を失っても、回復する生物がいます。アフリカに生息するヌムリユスリカは小さな水たまりに生息しますが、乾季には乾燥した状態で雨季を待ちます。水がたまると再び発育します。乾燥状態の幼虫は 100 度の高温でもマイナス 270 度の低温でも死滅しません。17 年度に生き返った記録もあり、これを、「極限環境の生命」の著者である D・A・ワートンは生きていけない、死んでもいない状態であるとし、脱水生命状態と定義しました。
- ◆ 植物はこれ以上です。2000 年以上も地下に眠っていたハスの種子を発芽、開花させたのは植物学者の大賀一郎博士です。脱水生命状態では老化も進行しないとされています。みずみずしいお肌は若さを保ちます…と言いますが、乾燥肌は老化を止めるかもしれません…???

- ◆ 地球上の生物は海から誕生したと考えられてきました。海から陸上に進出した生物は「乾燥」した環境でも生きられるように進化したようです。深海に住む生物は進化せず、時間だけを食べてきました。最近、生きた化石と言われるシーラカンスの稚魚の姿を撮影した報道がありましたが、さっさと陸に上がって脱水生命状態になった方が早かったかもしれません。
- ◆ このように考えると、以前から論議の的になっている「地球外生命」がいけない方が不思議です。最近では、惑星をもつ恒星は珍しくなく、太陽型恒星の 20 個の一つは惑星を持っています。銀河系内には約 2000 億個の恒星が存在します。この恒星が誕生する時にも、宇宙の塵(DNA)が飛び交っていたはずです。今、生命体の存在する一番の可能性(星)は火星で、水の痕跡も見つかっています。火星に赴き、雨を降らせては…？脱水生命状態の生物が蘇るかもしれません。
- ◆ 今月号は、盛りだくさんで、環境問題に関する意識調査報告も掲載しています。日常生活には特に関係ないと思われがちですが将来的には重要な課題です。
- ◆ 宇宙、地球、生命体等の話は理解が難しい面がありますが、“偶然性”と“必然性”の関係が成り立っていることにお気づきですか。関係が成り立つといっても、必然性があつての偶然性と理解することが重要です。  
何事も、必然性があつての事です。2009 年も終わりです。

来年は、2010 年の寅年です、必然的に…



【編集室】